Miyazaki International College Course Syllabus　2019　FALL

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| Course Title ( Credits ) | | EDU315:　教職実践演習（中 ・高） Practical Applications in the Teaching Profession (2 credits) | | |  |
| Course Designation for TC | | 教員の免許状取得のための必修科目  教職実践演習 | | |  |
| Content Teacher | | | |  |
| Instructor | | 樋口　晶彦　Akihiko Higuchi | | |
| E-mail address | | ahiguchi@sky.miyazaki-mic.ac.jp | | |  |
| Office/Ext | | MIC 1-413 / 3738 | | |
| Office hours | | Thursday 11:00~12:00 or by appointment | | |  |
| Course Description: | | | | |
| 「教職実践演習」のガイドライン沿って中・高免許に関して以下の到達目標を掲げる。  （１）教員としての使命感、責任感、教育的愛情等、対人関係能力を備えている。  （２）教科指導内容に関して十分な知識や技能を獲得している。  （３）学習や発達に関する理解を統合した指導計画の立案ができる。  （４）教材や指導法に関して知識を持ち、教育・授業実践ができる。  （５）生徒の発達や学習評価ができ、生徒を理解し、信頼関係を築いて指導できる。  （６）学級経営などを理解して、学校や教育を取り巻く基礎的知識を獲得している。  （７）その他、教員として求められる資質（学級活動や保護者とのコミュニケーション能力）を理解している。 | | | | |
| Course Goals/Objectives: | | | | |
| 本コースでは（１）使命感や責任感、教育的愛情に関すること、（２）社会性や対人的能力に関すること（３）生徒理解や学級経営に関すること（４）教科の指導力に関すること等について、教員としての最低限度の資質・能力を身に付けているのかどうかを確認する。又、学校側の視点や意見を反映させるために学校現場経験者による講話を導入する。さらに「履修カルテ」を参考に、個別に補完的な指導を行う。授業形態は、演習とする。Active Learningとして振り返り、レポート等も取り入れる。 | | | | |
| Tentative Course Schedule | | | | |
| No/Week/Day | Topic | | Content | |
| 第 1回  10月４日  （金） | 担当　樋口晶彦  履修オリエンテーション  教職実践演習の進め方、到達度目標の達成度の学修成果の履修カルテへの記載についての説明 | | ・履修オリエンテーションガイ ダンス （ シラバス、 授業計画 、到達目標の説明と確認）  ・授業形態は演習、Active Learningでのレポート、履修カルテ、自己点検シートの提出、・本時を終えてレポートとして提出  目標　(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) | |
| 第 2 回  10月1１日  （金） | 担当　学生教職支援センター  釋迦堂幾則  保護者・地域社会との連携 | | ・開かれた学校作りと学校評価  ・学級活動や保護者とのコミュニケーション能力　・グループ討議  ・レポートとして提出  　目標　(７) | |
| 第 3 回  10月25日  （金） | 担当　外部講師　山下亮介　氏  宮崎県教育委員会高校教育課指導主事  　教職の意義や教員の役割について | | ・グループ討議、ロールプレイを行う  ・振り返り、確認  ・レポートにまとめて提出  目標（１） | |
| 第 4 回  11月１日  （金） | 担当　教育学部教授　安東末廣  　　特別支援教育 | | ・特別支援教育の在り方  ・ロールプレイングによる場面指導  ・問題行動、危機管理の事例への対応  ・グループ討議の結果レポートとして提出  目標 (５)（7） | |
| 第 5回  11月8日  （金） | 担当　教育学部講師　中原邦博  　　学級経営の理解、学校や教育を  　　取り巻く基礎的知識の獲得 | | ・学級経営に関する講話を踏まえてグループ討議、レポートとして提出  　目標 (6) | |
| 第 6 回  11月15日  （金） | 担当 教育学部講師　中原邦博  人権教育 | | ・人権教育上配慮すべき点  ・セクハラの防止  　 ・グループ討議、レポート提出  目標　(１) | |
| 第 7 回  11月22日  （金） | 担当　外部講師　宮崎県教育委員会教職員課専門主幹　谷口英彦氏  　　 服務規律と教育のメンタルケア | | ・外部講師の講話を踏まえてグループ討議の結果、レポートとして提出  　目標 (1) | |
| 第 8 回  11月29日  （金） | 宮崎国際大学英語教育セミナー  　Active Learning | | ・宮崎国際大学英語教育セミナーに出席してActive Learningの事例発表に参加  ・それに関してレポートとして提出  　目標　(3) (4) | |
| 第 9 回  12月６日  （金） | 担当　樋口晶彦  　英語教育の小中連携 | | ・小学校外国語活動の最近の動向  　・正課としての小学校英語教育へ向けた現状と展望  ・グループ討議、レポート提出  目標 (2) (3) (4) | |
| 第 10 回  12月13日  （金） | 担当　樋口晶彦  　教師の授業力（１） | | ・コミュニケーション能力の育成  　・指導上の留意点 (listening, reading)  　・グループ討議、レポート提出  　目標　(2) (3) (4) | |
| 第 11回  12月20日  （金） | 担当　外部講師　宮崎市教育委員会指導主事　片山弘喜　氏  　中・高の英語教育の現状と課題、  　ＩＣＴ導入の英語教育 | | ・宮崎県の中高の英語教育の現状と課題  ・ＩＣＴ導入の英語教育の在り方  ・講話を踏まえてグルプ討議  　・レポート提出　目標(2)(3)(4) | |
| 第 12 回  １月10日  （金） | 担当　樋口晶彦  　教師の授業力（２） | | ・コミュニケーション能力の育成  　・指導上の留意点 (writing, speaking)  　・グループ討議、レポート提出  目標 (2) (3) (4) | |
| 第 13 回  １月17日  （金） | 担当　学生教職支援センター長  釋迦堂　幾則  　教育における体験活動の意義と  　実際について | | ・実際の活動状況やその意義を理解する  ・グループ討議を踏まえてレポート提出  目標 (7) | |
| 第 14 回  1月2４日  （金） | 担当　外部講師　宮崎県中部教育事務所主幹　川島博嗣　氏  　新規採用教員の心構えと  　初任者研修 | | ・初任者研修の講話を踏まえて自分の教員　としての素養を振り返り問題点を明確化  　・グループ討議、レポート提出  　 目標　(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) | |
| 第 15 回  １月３１日  （金） | 担当　樋口晶彦  全体のまとめ  教職実践演習の目標の一つ「資質能力」の確認、履修カルテの再確認 | | ・教職実践演習（中・高）のまとめ  　・個々の学生への振り返り不足する点、満足する点などの明確化  　・自らを振り返り、不足する点、満足する点を  　　まとめてレポートして提出  　・履修カルテ、自己点検シートの提出  　　目標 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) | |
| Required Materials: | | | | |
| 使用テキスト：各担当教員が用意する資料を使用する。  参考書、参考資料 ：  ・「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の 総合的な向上方策について」  （中教審答申平成24年8月）  ・「生徒指導提要」（文部科学省平成22　年3月）  ・「中学校学習指導要領　外国語」（文部科学省　平成29年告示）  ・「高等学校学習指導要領」　 （文部科学省　最新版）解説　　総則編 | | | | |
| Course Policies (Attendance, etc.) | | | | |
| 4年間の総決算であることを自覚して不足している知識・技能を補う努力をすること。又、  教員としての責任に鑑みて常に真剣に取り組むこと。 | | | | |
| Class Preparation and Review | | | | |
| 事前学習  ①講義、演習、グループ討議内容に関してはそれぞれ各自で整理して十分理解して不足す  る知識や技能を確認して補うこと。  ②以後の授業との関連性についても常に把握・理解しておく。  事後学習  ① 自分なりに整理し直し、授業内容を完全に理解しておくこと。  ② 毎回授業の中で、指摘するTask について、授業の後に自分 で再思考し、　自分の考えをきちんと整理して記入しておくこと。 | | | | |
| Grades and Grading Standards | | | | |
| 試 験 ： 50%、 レポ - ト等 50% で総合的に判断する。 | | | | |
| Methods of Feedback: | | | | |
| レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。  ・コメントを記載して返却する。  ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。  ・答案例を配布する。 | | | | |
| Diploma Policy Objectives: | | | | |
| Work completed in this course helps students achieve the following Diploma Policy objective(s):  4: Advanced communicative proficiency in both Japanese and English | | | | |
| Notes | | | | |
|  | | | | |